

核兵器の廃絶・核戦争阻止・被爆者支援の運動を、あなたもごいっしょに

佐賀県原水協ニュース

2009年7月7日発行 佐賀県原水協事務局作成 第33号

事務局電話0952-31-7711 FAX0952-31-7713 (佐高教組内)

<http://sky.geocities.yahoo.co.jp/gl/gensuikyosaga>

今、現在のこととして聞いて涙が出ました

朗読劇&映画「マッシュルーム・クラブ」上映会 in シアターシエマ



佐賀県原水協は7月4日(土)朗読劇&映画「マッシュルーム・クラブ」上映会を佐賀市松原の映画館『シエマ』にて取り組みました。14:00と17:00の2回上映で68名が訪れ、イベントホールの素敵な空間を共有しました。

朗読と上映に先立ち、原水協の田中龍一郎事務局長が「核兵器廃絶をめぐる世界の動き」と題して、原爆症認定集団訴訟を通じた被爆者の訴えや来年5月のNPT再検討会議に向けた運動、佐賀市議会が6月に非核平和宣言を求める決議を採択したことを説明しました。

朗読劇は「漣(さざなみ)」という朗読サークルがおこない、佐賀市内の小学校などの平和授業にて活動をおこなっています。このサークルとの結びつきは、昨年5月の海老名香葉子講演会にて朗読がプログラムにあったことを知った方が、いつか一緒に出来ないだろうかとお誘いを受けていたことがあり、今回は映画が広島の子供たちの話なので、朗読の展開を長崎の被爆体験と組み合わせることはどうかと準備をすすめてきました。4人のメンバーが35分ほどの朗読をおこない、参加者からは「素晴らしい朗読劇だった」「新鮮だった」「64年前のことではなく、今現在のこととして聞

いて涙が出ました」との感想が寄せられました。朗読を指導するフリーアナウンサーの鑑(たたら)しずこさんは長崎生まれの被爆2世で、「小学生のとき恩師の家族が白血病で亡くなりましたが、爆心地をさまよい肉親を探し、放射能にまみれた粉じんを吸い込み体内に被爆したのです」と被爆者の苦しみを語りました。

映画はスティーブン・オカザキ監督が2005年当時の広島を考察し、自らのナレーションを交えながら仕上げた短編ドキュメンタリーです。「はだしのゲン」の作者・中沢啓治さんや、あの日亡くなっていった人々のポタンを河原で拾い続ける佐伯敏子さん、母親の胎内で被爆した原爆小頭症患者とその家族の会「きのこ会」など10人の被爆者が登場しました。参加者は「これまで多くの原爆にかかわる映画を観てきたが、また違った角度から原爆と被爆者を見ることができた」「長崎のことは良く知っていたが、広島のこと初めて知ることがあった」との感想をはじめ、会場であるシエマの雰囲気を感じた方も数多くおられ、文化と平和が結びついた有意義な会になりました。